

刊夕



定価 一冊五銭 三冊一四銭 六冊二八銭 一冊五銭 三冊一四銭 六冊二八銭

創作 雲後晴

柴田 狂夢

アームチェアに腰掛け 夕陽が落ちて居る寺尾は 突然奇聲を發した

磐城歌壇

新妻 久満夫 選

「春の歌共」 長 子 静かなる五月の朝をいねて聞くさへすりのよ

浪人長屋

日 岐 武 志 作

「つまんないわ、妾」 泣きだしたような聲で 『だつて君ちやんは病氣じ

芝蘭集

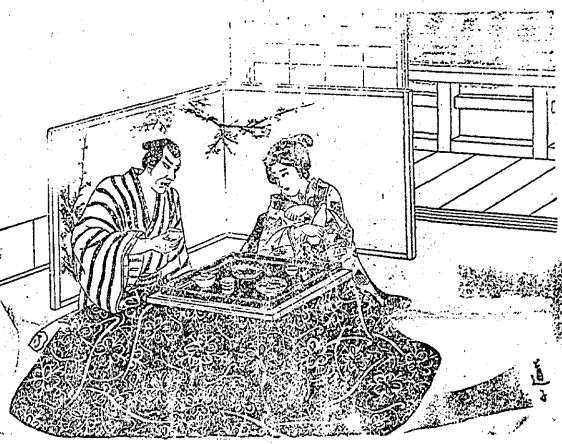
勅題 警州 直元

新年松 明治四十年 物皆は移り行く世の習にも、千代の根さしの

社頭杉

大正三年

若が代は千代に八千代に長かれと、掛けても 祈る伊勢の注連杉



社會の今日

北 江

「酒手か、それ一兩だ、あばからず雪見酒、にやにや悪戯で、片手はかくてもそ

精神科 脳脊髄病科 神経病科 郡山市外大槻村針生 郡山脳病院

浪人長屋

日 岐 武 志 作 月 草 蓮 子 畫

「待て、待たんかッ」 一平は、すぐ、駕籠の脇ま



神のものは神に ホシホシに 胃腸薬は

リスク はホシホシ 社会式株薬製 田成三 京東

集募名数員店小 三目三町平 番九二四話電 舗薬シホ 部支平一アトスンエチシホ

